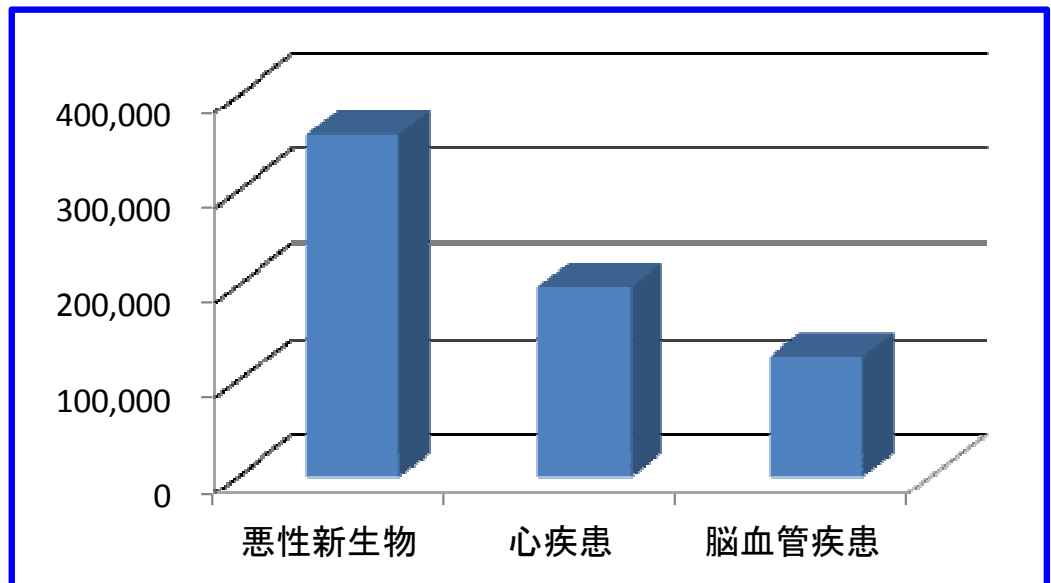




厚生労働省の最新の人口動態統計による2011年の死亡者数のうち、がんによる死亡者数はどのくらいですか？



2011年の死亡数は126万1000人。そのうち、3大死因の死亡者数は
 第1位……悪性新生物35万8000人(以下「悪性新生物」は「がん」と表記)
 第2位……心疾患19万8000人、
 第3位……脳血管疾患12万6000人
 と推計されています(図参照)



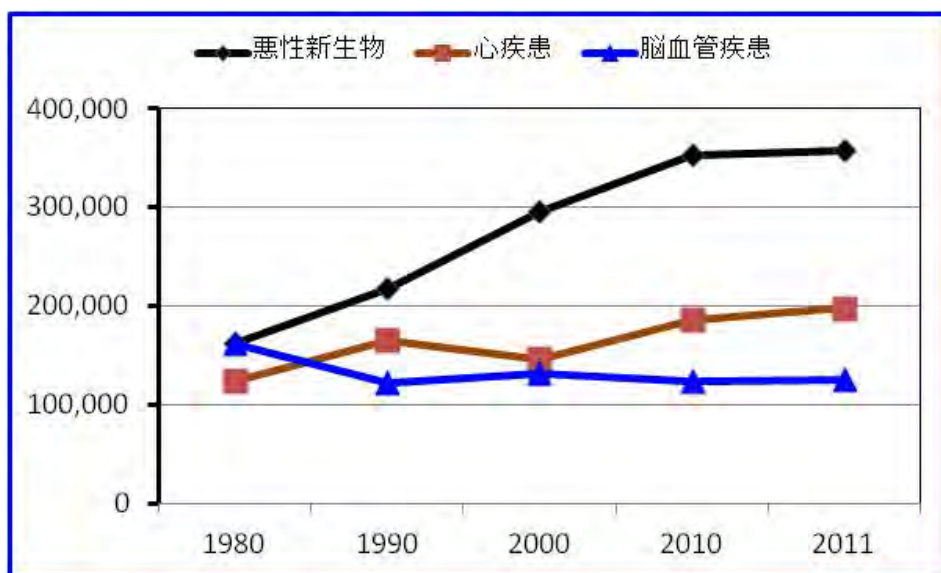
死亡数は126万1000人のうちがんの死亡者数35万8000人は3人に1人が「がん」で亡くなっていることになります。「がん」に罹る可能性は男性の2人に1人、女性の3人に1人と推測されています。いまではこのように日本人にとって「がん」はだれでも罹る病気といえます。



死亡原因の年度別推移はどうなっていますか？



1980年代の死亡原因は「がん」「心疾患」「脳血管疾患」は同じくらいでした。それが1990年代を境に「がん」の死亡者数がどんどん増えています。



では、「がん」は、どこの部位に罹るのが多いですか？



男性は肺、女性は大腸が多いです。

●2011年の死亡数が多い部位は順に

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓
女性	大腸	肺	胃	膵臓	乳房
男女計	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓



「がん」に罹らないようにするにはどうしたらよいのでしょうか？



「がん」に罹る原因は、喫煙、飲酒、肉食中心の食事、高塩分の食生活、運動不足等の日々の生活習慣の悪化から罹ることが多いです。これら生活習慣に気をつけて「がん」に罹るリスクを下げることが大切です。

でも生活習慣を改善しても、「がん」に罹るリスクはゼロにすることはできません。

そこで重要なのが「がん」の定期検診です。医学の進歩等により「がん」の約50%が治るようになりました。「がん」に対し適切な治療を行うには初期の段階で発見します。そうすれば非常に高い確率で治癒できます。

というわけで「がん」を初期の段階で見つける「検診」は死亡率を下げるのに非常に有効なのです。



「がん」の検診率は高いのですか？



2007年に実施された「国民生活基礎調査」によると、日本の「がん」検診受診率は男性が罹り易い胃がん、肺がん、大腸がんは3割程度です。

女性特有のがんである子宮がん、乳がんは2割程度です。男性・女性とも検診率が低いです。



専業主婦など会社の定期検診を受診できない方。病院の人間ドックの検診料金が高額で家計上厳しい方はどうしたらよいですか？



がん検診は市区町村でも行っています。お住まいの市区町村に詳細を尋ねてください。以下の表は某市の「がん」検診の内容です。

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診及び胃部エックス線検査	40歳以上	年1回
子宮がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	問診、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診、視診、触診及び乳房エックス線検査 (マンモグラフィ)	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回

厚生労働省がんキャンペーンHPより

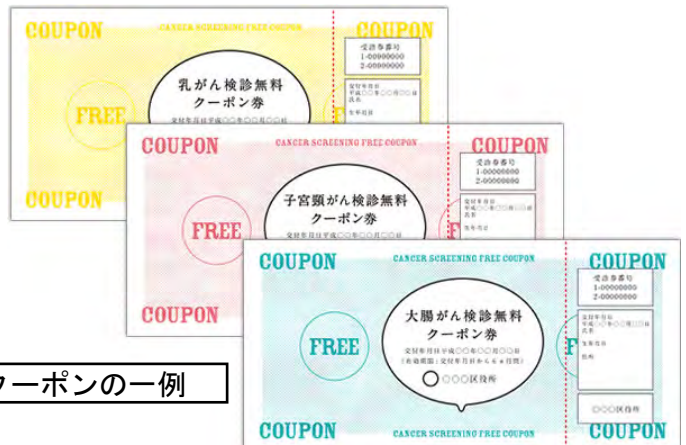


女性特有のがんである乳がんと子宮頸がんのがん検診に無料クーポン券を発行しているとききましたが内容を教えてください。



女性特有の子宮頸がん、乳がんは、他のがん検診に比べ受診率が2割程度と低いです。一定の年齢に達した女性に対し子宮がん、乳がん検診の無料クーポンを配布しています。「無料クーポン券」の対象者は次の年齢になった方

- 子宮頸がん検診：20歳、25歳、30歳、35歳及び40歳
- 乳がん検診：40歳、45歳、50歳、55歳及び60歳



無料クーポンの一例